助成番号 173165	５－２

研 究 成 果 報 告 書

（国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿）

研究テーマ（和文） AB	民間が保有する環境アセスメント資料のアーカイブ化に関する調査研究				
研究テーマ（欧文） AZ	Study on Archiving of Environmental Assessment Documents owned by the Private Sector				
研究代表者	ｶﾀｶﾅ CC	姓）カサギ	名）ヒロオ	研究期間 B	2017 ～ 2018 年
	漢字 CB	傘木	宏夫	報告年度 YR	2018 年
	ﾛｰﾏ字 CZ	KASAGI	HIROO	研究機関名	環境アセスメント学会
研究代表者 CD 所属機関・職名	傘木宏夫 環境アセスメント学会 常務理事 情報委員会委員長				

概要 EA

1．目的

日本における環境アセスメントの営みが 60 余年を数える中で、民間の研究者やNGOなどが保有する環境アセスメントに関連する資料が散逸せずに保存され、有効に活用されるために、その現状を把握するとともに、アーカイブ化に向けた諸課題を整理する。

2．研究活動の実施状況

（1）民間資料の現況把握

①黎明期の環境アセスメント事例の所在調査と復刻版の作成

＊西宮日石コンビナート建設計画（1963 年）、三島沼津コンビナート建設計画（1964 年）をめぐって、反対住民などによる環境影響評価の取組みについて、資料の所在を調査し、資料の復刻版を作成し、WEB 上に公開した。

＊国立国会図書館及び国立公文書館における民間事業者による環境影響評価資料の所在を調べた。

②島津資料の調査・目録化

＊島津康男氏（環境アセスメント学会初代会長、92 歳）の自宅を調査し、資料の保存状況を確認し、その目録化を行った。また、島津氏への聞き取りにより、保有資料に対する思いや後世に伝えたいことなどを記録した。

③環境アセスメント学会会員へのアンケート及び聞き取り

＊学会誌発送と合わせて全会員（471 名）を対象としたアンケートを実施したが、回収数が少なかったため、主要役員（6 名）を対象に聞き取りを行った。

（2）公開研究会の開催（全3回）

第1回「地域開発に関する資料のアーカイブ化」（2018 年 3 月 6 日、於：京都大学、参加者：9名）

共 催：京都大学経済学研究科・経済資料センター

ゲスト：岡田知弘氏（京都大学大学院、同センター長） 、水島和哉氏（同センター）

第2回「公害資料館ネットワークの取組み」（同 4 月 4 日 地球環境パートナーシッププラザ（東京）、参加者9名）

ゲスト：林美帆氏（（公財）公害地域再生センター）、星野智子氏（（一社）環境パートナーシップ会議）

第3回「民間資料のアーカイブ化に伴う法律問題」（同 5 月 7 日、東京ウィメンズプラザ（東京）、参加者9名）

ゲスト：早川和宏氏（東洋大学法学部教授、弁護士、日本アーカブス学会副会長）

（3）学会年次大会での特別集会の開催（2018 年 9 月 2 日、於：法政大学市ヶ谷キャンパス）

報告 1：環境アセスメント資料のアーカイブ化をめぐる諸課題（傘木宏夫、研究代表）

報告 2：環境省における環境影響評価図書の持続的公開について（環境省・湯本淳氏）

報告 3：環境アセスメント業務からみたアーカイブ化の意義と課題（浦郷昭子氏、レイブン、研究員）

報告 4：地域開発と公害問題に関するアーカイブズ活動の意義（岡田知弘氏、前出）

報告 5：環境アセスメント資料のアーカイブ化をめぐる法律問題（早川和宏氏、前出）

コメンテーター：田中充氏（法政大学、環境アセスメント学会会長）

3．成果と課題

①調査を通じて重要資料の再録や目録を作ったが、圧倒的多くの資料が散逸の危機にあることが再認識された。

②研究者の多くは資料保全に関心が低いか、保存のすべがなくあきらめている状況にある。

③民間保有の環境アセスメント資料は著作権法や守秘義務などの制約がありアーカイブ化のハードルが高い。

④「環境研究資料の一時保管プロジェクト」を提唱するとともに、環境省などに法整備を提案した。

キーワード FA	環境アセスメント	資料保存	民間資料	

（以下は記入しないでください。）

助成財団ｺｰﾄﾞ TA						研究課題番号 AA									
研究機関番号 AC						シート番号									

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題GB	環境アセス資料の保存と活用のためのアーカイブ化							
	著者名 GA	傘木宏夫	雑誌名 GC	環境情報科学					
	ページ GF	38～42	発行年 GE	2	0	1	8	巻号 GD	４７－４
雑誌	論文標題GB	環境アセスメント資料のアーカイブ化に向けて							
	著者名 GA	環境アセスメント学会情報委員会	雑誌名 GC	環境アセスメント学会誌					
	ページ GF	14～19	発行年 GE	2	0	1	9	巻号 GD	Vol.17 No.1
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	

欧文概要 EZ

The purpose of this research is to create a situation where materials related to environmental assessment owned by private researchers and NGOs are stored without loss and used effectively.

To that end, we worked on the following:
1. Grasp the current status of private materials
2. Open research meeting (all three times)
3. Special meeting held at Annual Meeting of the Japan Society for Impact Assessment

The following achievements and issues were found through these efforts.
1. Through research, we made reprints and catalogs of important materials, but it was reaffirmed that the vast majority of materials were at risk of dissipation.
2. Many researchers are not interested in the preservation of materials, or are giving up without preservation.
3. Environmental assessment materials owned by the private sector have limitations such as copyright law and confidentiality, and there is a high hurdle in archiving.
4. We proposed a "Temporary storage project for environmental research materials". Thus we proposed to the Ministry of the Environment to develop a law.